



# 池戸一成 後援会 会報

## しぶがき通信

夏号

発行日:平成25年7月  
発行者:池戸一成後援会事務局  
各務原市蘇原柿沢町1-15  
TEL:371-2749  
FAX:382-1350

浅野新市長が誕生し、今議会では傍聴にお越しになられた方がたいへん多かったです。議会初日は、所信表明が行われるということもあり、傍聴席への入場は抽選となりました。あらためて浅野市長への「人気」と「期待」が伺われました。来られなかった方のために、浅野市長の所信表明を掲載いたします。要約して読みやすくしようかとも思いましたが、各務原市民にとって今後4年間の大切なお話なので、全文を掲載いたします。

今回の内容は「浅野新市長・特集」となっております。紙面が足りずに文字ばかりになってしまいました・・・

池戸 一成

### 議会で浅野市長に要望

議会では市執行部（市長と市役所職員）から様々な議案が提出され、それぞれに対し質問したり、討論（意見を述べる）したりして、その後採決（賛成の議員は起立する）を行います。今回の議会閉会日の討論の場面で、市長に要望を述べました。内容は以下の通りです。

#### 【池戸一成の討論内容】

今議会では新人議員諸君の全員が一般質問に立たれました。その質問中で多くの議員が当市の人口に関する課題、とりわけ、現在そして将来の各務原市を下支えする若い現役世代の人口減少を懸念し、その年齢層の人口増をねらった施策の重要性を、みなさん訴えられたように思います。このように多くの新人議員諸君が、初めての質問で人口問題を取り上げたということは、このことに問題意識をもって、そしてこれからの行政運営は難しい時代にさしかかることを認識して、今回新たに議員になられた方が多いということであり、ひいては各務原市の将来を考える上で、この人口問題への対処が最重要課題のひとつであることは間違いないと改めて認識すべきではないのでしょうか。

（中略～議案各号に対する討論）

市長の主張する「市民の声を聴く」ということに対し、とかく市民には要望が聞き入れてもらえる、やってもらえると思われがちです。冒頭に触れました通り、これからは、財政面などで下支えする人口、いわゆる生産年齢人口が減少し、被扶養人口が増えていくことから、たいへん難しい時代に差し掛かってきています。市民からの要望に基づく「足し算」の施策ばかりでは成り立ちません。「引き算」をする施策もバランスよく盛り込まなければなりません。そし



て、この「引き算」が時間と手間と根気が必要ないへんな作業となります。

これまでコツコツ積み上げた行財政改革は職員と市民の理解と我慢と意識向上の上に成り立ってきたと思います。例えばスピード感を持った各務原市役所の対応は職員の意識向上に支えられるカイゼン運動によるものです。歳出を削減するため様々な場面で、市民の我慢と職員の説明努力にも支えられています。しかしながら、これらの手綱がゆるみ、行財政改革に逆行でもしものなら、持ち直しをするのにさらに時間と手間がかかります。

浅野市長のいう「市民との対話による新しい各務原市づくり」とは「皆さんの要望は何でも聞きますよ」ということではないということは想像できますし、そのように理解をしています。しかしながら、実際に上がってくる市民の声と市長が目指すものに隔たりがあるというような、現実と理想の狭間を埋めるために、例えばNOといわなければいけない場面があったり、根気よく説明し理解を求めなくてはいけない場面があったりすると思います。そこに浅野市長の「勇気」と「情熱」そして「信念」が必要となると思うのです。「勇気」「情熱」「信念」この「ゆるがない3本の矢」をもって、将来世代に誇れる各務原市を市民と共に築いていきますことをお願いし、討論を終わります。

## 浅野市長の所信表明(全文)



この度の選挙を通じまして、数多くの市民の皆さまの方の生の声を直にお聞きするとともに、各務原市を今以上に良くしていこうという「志」や「熱い思い」に触れ、改めて感銘を受けたところでございます。同時に、15万市民の皆さま方から各務原市政の運営を負託されることになりまして、市民一人ひとりの期待と市長としての責任の重大さに身が引き締まる思いでございます。

さて、私が政治家を目指し、そして市長になろうとした原点は、中学3年生の時にあります。私が「市長ってどんな仕事をしているのだろうか。」と質問したときに、その答えは「市長は大変な仕事。私たちの将来を、この街の未来を担っていく仕事なんだよ!」というものでした。私はその時に、「この各務原市をもっと楽しい、笑顔あふれる街にしたい!」と決意し、政治家になることを志しました。私は、この少年期の「思い」と28才の時に市議会議員に初当選した時の「決意」を持って、新しい各務原市のために、私の持つ全てを捧げる覚悟でございます。

私は、各務原市長として、市民の皆さまからの負託にお応えをし、我が街 - 各務原市 - の更なる発展のために全力を尽くして参る所存でございます。市民の皆さま、企業の皆さま並びにそれらを代表される議会の皆さま方のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。どうかよろしく申し上げます。

さて、今わが国は、本格的な人口減少時代と超高齢化社会が到来し、独居高齢者、核家族化、共働き、子育て不安など、解決しなければならない課題が山積しております。あわせて、1990年代初頭以降の慢性的な需要不足の継続による「失われた20年」といわれる構造的なデフレ体質により、経済成長は低い水準で推移しています。同時に、年金・医療・介護等の社会保障経費は、年々増加している状況です。国と地方を合わせた債務残高は1,000兆円に迫ろうとしており、国のプライマリーバランスの黒字化の目処は未だ立っていない状況であります。わが国の財政状況は極めて危機的な水準にあります。

安倍政権は、いわゆる「アベノミクス」において、①「大胆な金融政策」、②「機動的な財政運営」、③「民間投資を喚起する成長戦略」の3つの基本的方針を掲げながら、さまざまな政策を打ち上げ、デフ

レ経済からの脱却を目指してきております。

また、地方に向けては、地域主権戦略大綱（平成22年6月閣議決定）に基づき、「地方からの新たな提言等も踏まえて基礎自治体への法令による一層の権限移譲について検討を行う。」とし、県から基礎自治体への権限移譲はさらに進むものと考えられます。さらに、道州制基本法案及び道州制推進基本法案が国において議論されており、これが成立すれば、道州制国民会議が設置され、内閣総理大臣の諮問を受けた日から3年以内に答申があり、さらに答申があった場合は、2年以内に法制整備が義務づけられてきております。

地方自治体は、平成の大合併を乗り越え、血のにじむような行財政改革に取り組んで参りましたが、さらに国は財政難を克服するため、地方交付税、国庫補助金、あるいは社会保障における地方負担など、国を挙げた行財政改革は、一旦スタートすれば急速に進んでいくものと想定されます。これは、確実に地方財政の変革を強いることとなり、まさに、地方の意思が試されることとなります。

さらに、少子高齢化、核家族化、人口減少、高齢世帯の増加、引きこもり、ニートの増加、不登校、希薄化するコミュニティなど、メンタルな社会問題を抱える中、社会保障制度の大幅な改革が行われようとしています。市民を取り巻く環境は、まさに切実であり、将来への不安を抱かれている方も少なくありません。このような不確実な社会経済状況のもとで、市民の皆さまが幸せを実感できる社会を築き、また将来の各務原市を担う子どもたちに確かな夢を持つ街にしていくことが、私の「使命」ではないかと考えております。

私、浅野健司の原点は、自分のふるさと各務原市に対する「夢」であり、それを実現するための熱い「思い」であります。私は、市民一人ひとりが、それ

ぞれの目的や夢を持って、主体的に人生を謳歌し、幸せを実感できる「街」が理想であると考えます。

「市民が幸福を実感できる」まちづくりのため、①「誇り」と、②「やさしさ」と、③「活気」の3本の柱で、ハード・ソフト両面から全力で取り組んで参ります。

私は始めに、これら3つの観点から、事業を総点検し、市民との「対話」、市場調査による市民ニーズを把握し、今後10年間を見据えた総合的な計画を議会の皆様とともに策定して参りたいと存じます。施策の展開に当たっては、年次計画を策定し、着実に実施し、その成果を議会、市民の皆様にお知らせしたいと考えております。また、あわせて着実な事業実施のため中期財政計画を策定し、財源を見通し、事業の進捗を担保するとともに、全国有数の健全財政を引き続き堅持して参ります。

私が推進して参ります、まちづくりの3つの柱をお示しします。

一つ目の柱は、「誇り」・・・“新しい人づくり・地域づくり”です。

各務原市が誇る歴史・文化・自然を活かした教育環境づくりに取り組みます。また、地域を守る消防団などボランティア的な市民活動員の確保と、行政と市民との協働による地域安全の向上に努めます。さらに、生涯スポーツによる全市民の健康づくりと施設の充実を図ります。

二つ目の柱は、「やさしさ」・・・“新しい安心づくり”です。

子どもを守るための通学路安全確保の向上と公共施設の100%耐震化を実現します。また、お年寄りや障がい者の方々が元気に暮らせる福祉環境の構築と交通弱者対策に取り組みます。さらに、全国有数の財政体力の維持向上を図り、次世代に負担を残さず、行政の大変革にも耐えうる財政運営を堅持します。

三つ目の柱は、「活気」・・・“新しい元気づくり”です。

市民の生活を支えているのは、多くの市内企業です。情報共有や意見交換のを創設しつつ、元気な企業を支援する仕組みの構築に取り組みます。また、NPOや市民活動団体との連携を進めながら、市民や

地域の担い手が自由な発想で主体的・積極的に街づくりに取り組めるような支援策を強化します。さらに、公共施設や道路などの公共インフラについて、経済効果と投資効果を考慮し、機能の高い都市空間の創造と環境美化の充実と単なる維持管理だけではなく、便利で使い勝手の良い施設にするためのリフレッシュリニューアル事業を推進します。

以上、私が目指していく街づくりの方向性の一端について、述べさせていただきました。

私は、この3つの柱の実現に向けて、さまざまな世代の市民との「対話」を大切にし、勇気と情熱をもって果敢に取り組んでいくことが最も肝要であると考えております。そこで私は、

1. 若者の声を聞きます（若者のアイデアを！）
2. 子育て世代の声を聞きます（子育て世代とともに！）
3. 高齢者の声を聞きます（高齢者の知識と経験を！）

の3つの「対話」により信頼を獲得してまいります。「対話」を通じて、広く皆さんからのアイデアを最大限に有効に活かしながら、夢ある未来のために、“市民の、市民による、市民のための市政”を実現してまいります。

さまざまな世代の市民の皆様との「対話」を通じて皆さんの声を聞き、3つのビジョンをご理解いただき、また、これらを実行するために、私は、市議会議員3期12年の実績と信用を糧に、持ち前の若さとバイタリティー（粘り強さ）と勇気と情熱を原動力として、誠心誠意努めて参る所存でございます。私の目指すまちづくりは、市長一人で成し得るものではありません。議員各位並びに市民の皆様のご理解と力強い協力が不可欠でございます。私を先頭に、副市長以下市執行部一丸となって市政に積極的に取り組み、市民の皆様から確固たる信頼と信用を得てまいりたいと考えております。どうか、今後とも、闊達なご議論とご助言賜りますことを心よりお願いを申し上げます、私からの所信の挨拶とさせていただきます。

※今回の浅野市長の所信表明は、執行部より議員に配布された原稿をそのまま引用したものです。実際に話した内容とは、若干違いがあるかもしれません。

## 夏まつり～子供たち、集まれ！

日 時:平成25年8月24日(土) 午後5時半～8時半まで

場 所:高安(株)さん 南駐車場(蘇原村雨町3丁目)

※ 盆踊り、マジックショー、輪投げ、ストラックアウト、焼きそば、串かつ、ヨーヨー釣り、綿菓子、かき氷、ポップコーンなど

※ 雨天の場合、中止です。内容は変更する場合があります。



## 秋のバーベキュー大会

『気仙沼産さんま』をはじめ、秋の味覚をご用意。

日 時:平成25年10月20日(日) 午前11時半より

場 所:未定(お申し込みの際にお伝えいたします)

参加費:小学生以上500円(小学生未満は無料)

※ 雨天の場合、中止します。

※ 事前にお申し込みください。(会費は当日いただきます)



## 秋の日帰り研修旅行

今年は豊川稲荷に参ります。

池戸友人の豊川稲荷住職にもお会いいただきます。

昼食は豊川稲荷にて精進料理をいただきます。

※ よりよいものにするために、現在も内容を検討中です。

日時:平成25年11月上旬

行先:豊川稲荷、他

参加費:6,000円(昼食代・保険代含む)

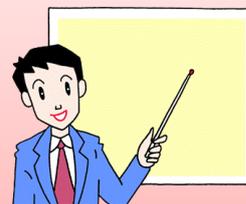
※ 詳細は下記にお問い合わせください。

※ 定員になり次第締め切らせていただきます。



## 3人寄れば・・・池戸一成

- ◆ 市へのご意見から雑談まで、お友だちと集まる場所にお呼びください。
- ◆ ご指定の場所まで伺います。  
もしくは後援会事務所(蘇原柿沢町1-15 池戸ミシン)でも結構です。
- ◆ 日時はいつでも結構です。スケジュールが合わないときはご了承ください。
- ◆ ご連絡は下記の後援会事務所もしくは070-5408-7007(池戸の携帯)まで。  
電話に出られないときはご了承ください。



後援会にご登録いただくと

会報や各種イベント案内をお届けします。

後援会のお申し込みや、イベントのお問い合わせは、

後援会事務所まで。電話:371-2749

**ご登録は無料**